巻頭言
「リモートとリアル」

日本放射線技術学会東北支部
副支部長　千田　浩一

私は大学教員ですが、当初はあまり馴染めなかったリモートオンライン講義にも少しは慣れてきたところです。利点欠点それぞれあるものの、一方向的では無く受講学生への双方向授業も比較的容易にできるようになりましたので、リモート講義もそんなに悪くはないのかなと思っています。さらに全く無理だと思っていた学生実験についても、実験方法と測定結果の様子などを丁寧に収録したオンデマンド配信を一部の学生実験で試みてみたところ、「分かり難いところを何度も繰り返し確認できるのでとても良かった」など意外にも概ね好評ではありましたが、「大変だけどはやはり対面のリアル実験の方が身に入りやすい」などの意見も多くあり、まあ当然かなと実感しています。

2022年10月1日に医用画像情報学会（JSRT東北支部後援）を仙台にて開催いたしました。ハイブリッド開催を実施した結果、多くの方々に参加して頂くことができましたし、そしてリモート参加者も含めて活発な討論が行われました。リアル対面とリモートを組合せることの有用性を実感したところではありますが、ハイブリッド開催を円滑に実施するためには、スタッフの多くの努力と労力が必要でした。

昨今の事情により、予定に無かった大学業務が入り、第12回東北放射線医療技術学術大会（TCRT2022）に現地参加できないことが直前に決まりました。指導する学生の演題発表もあるため、どうしようか困惑していましたが、ハイブリッド開催によるリモート参加が可能であったため、とても助かりました。金沢大会長や能登実行委員長をはじめ多くの実行委員の方々の大変なご苦労の賜物であり、ハイブリッド開催実施に感謝しております。TCRT2023山形大会でもハイブリッドにて開催される予定とのことで安心しております。でも対面でのリアル参加が学会の醍醐味ではありますし、リアル発表の機会は学生にとって非常に良い経験になっていますので、運営サイドには多大なご苦労をお掛けしますが、「リモートのみ」の開催はなるべく避けて頂きたいと思っております。

先日、勤務先の医学部の教授会にて、新型コロナ感染症の厚生労働省アドバイザリーボードを務められている教授から「季節性インフルエンザとは全く次元が違う。」とのご発言があり、『5類相当』への早急な見直しについて強い懸念を示されていました。治療薬が認可されるなど少しは良い方向に進むものと期待していたところではありましたが、出席していた教授たちは皆、暗い表情になっていたようでした。

リモートとリアル、ずーと共存することになりそうですね。